

(記入日：2020年9月26日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

江戸のエコ学 (2年選択前期2単位)、カラーコーディネート (2) (2~4年選択必修前期2単位)、生活アート論 (2~4年選択必修前期2単位)、コミュニケーション能力基礎演習 (2~4年必修2単位) など

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

教育理念・目標は、学生が日常生活の中から物事の起源や先人たちの知恵などを理解し、現代の身の回りにある資源や環境に関わる問題点を多角的に視る姿勢を身につけ、実践を通して問題解決に結びつく工夫や応用力を養うことである。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

リモート授業になったために、急遽、前期開講と後期開講が入れ替わった科目がある。

江戸のエコ学、カラーコーディネート (2)、生活アート論では、授業開始までに教科書入手が間に合わなかった。そのため、学生が主体的に学習出来るようにシラバスに合わせた資料をスキャンし、pdfに変換し、teamsに3日前までにアップし、前もって授業の予習ができるようにした。授業日は、teams会議を使用して双方型授業を行い、アップした資料の解説をした。また、formsを使用し、授業内容の振り返りや次週までの予習などを記入して送信させた。提出された課題については、コメントをつけてフィードバックした。生活アート論では、7月中に対面授業を2回行い演習課題の実践に取り組んだ。後日のteams会議の双方型授業を利用し、各自で演習課題の成果を発表し、講評を行った。

コミュニケーション能力基礎演習では、事前に課題を提示していたため、その課題を送信してもらい授業時間にteams会議で課題を共有し、グループ内で発表とディスカッションをし、講評を行った。

4 成果 (どうだったか：結果と評価)

新型コロナウイルスの影響で対面授業が不可能になりリモート授業になったが、インターネット環境が把握出来ず、また教員学生共にオンラインは初めてのため、戸惑いがあった。外出自粛もあったため、図書館等で調べ物も出来ず課題をこなすのが大変だったように感じた。そこで、アップする資料には、なるべく図や画像 (解像度を少なくし) を多く使用して具体的に理解し易くする工夫をした。普段何気なく使っている物や見ている物に関心を持ち、理由や仕組みがあることを具体的に理解することで、生活の中に活用できるようになると思われる。

5 今後の目標 (これからどうするか)

今回の様に不測の事態がいつどの様に起こるか分からない状況で、今後はPCやインターネット環境が不可欠となり、AIやIOT等が普及し電力や他のエネルギー消費量が増大する生活になると予想される。しかしながら、生活文化学科では、衣食住の学びを通して人間の持っている五感を使い、災害等のように様々なエネルギーを使用できないときにも先人たちの知恵や工夫を活用して生きる力を身に付けるのである。今後は、オンライン授業の利点と対面授業の利点をミックスしたハイブリッド授業の必要性を感じた。今後は、人力やコミュニケーション力を維持しつつ、新しい生活様式に対応する授業を検討する。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1 山本博文監修、「大人の教養図鑑『江戸入門』くらしと仕組みの基礎知識」、河出書房新書
- 2 『大江戸くらし図鑑』洋泉社 Mook
- 3 大関徹他監修、『ファッション&ビューティーの色彩』、日本色研事業(株)
- 4 七江亜紀監修『知って役立つ色の事典、』宝島社
- 5 桜井輝子、『色の教科書』、Gakken
- 6 『学生のためのプレゼンテーション・トレーニング』、実教出版
- 7 『カラー&ライフ』、日本色研事業(株)
- 8 「work paper」配色実習台紙、日本色研事業(株)
- 9 『日本のかたち』、平凡社
- 10 『Casa BRUTUS』、MAGAZINE HOUSE

## ティーチング・ポートフォリオ

学科：生活文化 氏名：高山啓子

(記入日：2020年 9月 28日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

基礎ゼミナール (必修2単位)、プレゼミナール (必修2単位)、景観論 (選択必修2単位)、観光社会学 (選択必修2単位)、観光文化実践II (選択必修2単位)、フィールドワーク法 (選択必修2単位)、観光政策論 (選択必修2単位)、観光文化入門演習 (必修2単位)、観光文化専門演習(1)(2)、卒業研究、卒業研究演習、社会学/社会学(1) (選択必修2単位)、社会学(2) (選択必修2単位)、統計と社会 (選択2単位)、社会学概論 (生活文化学科必修2単位)、ジェンダー社会論基礎論(2) (大学院選択必修2単位)、メディア研究III(2) (大学院選択必修2単位)、修士論文指導 (大学院) など

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

社会のさまざまな現象 (観光を含む) に対して学生自身が関心を持ち、それぞれの問いを立て、分析できるような機会をつくること、またそれらを協同して行えるようになることを目指している。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

講義形式の授業では、学生がその回のテーマに関する課題 (シラバス事前学修で提示したもの他) について自分の考えをまとめたものを提出するという方法をとっている。基礎ゼミナール、専門演習、観光文化実践などでは、文献や資料に基づく研究報告を行ない、ディスカッションによる相互の意見交換を行っている。大学院ではより専門的な関心に沿ったテキストを取り上げ、研究報告を行っている。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

各科目において、比較的学生の自主的な関心を高め、自分の考えを持たせることができた。ただし学生によって、取り組みごばらつきがある。今年度は学生相互のディスカッションができる場が少なく、特に講義形式の授業では学生個人の取り組みに限るということになった。

### 5 今後の目標 (これからどうするか)

自主的な取り組みが積極的な学生にそれを促す具体的な方法を検討したい。またより意欲のある学生に対する、別の課題などを検討したい。

### 6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

授業で提出されたコメントペーパー、レポート (非公開)

## ティーチング・ポートフォリオ

永嶋久美子

(記入日：2020年 9月 10日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

調理学 (1年後期選択必修科目2単位), 調理学実験 (2年前期選択必修科目1単位), 給食経営管理論 (2年前期選択必修科目2単位), 給食管理実習 (1) (3年前期選択必修科目1単位), 栄養教育実習演習 (事前・事後指導) (3年通年選択必修科目1単位) など

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

私の教育理念・目標は、科学的根拠に基づいた食、栄養、健康、調理を理解し、その問題解決に向けた行動をPDCAサイクルによって主体的に取り組む力を身に付けることである。また、これらの力を身に付けた実践力のある栄養士、栄養教諭養成を目指している。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

学習を進めるにあたり、調理学では一般的な調理例をあげ科学的根拠の学習を進めている。また、授業後の学習の振り返りのためのワークシートを作成し、課題とした。提出された課題はコメントを入れ、質問などは次の授業で解説するなどのフィードバックをした。調理学実験は、2020年度前期に遠隔授業で実施した。事前に実験キットを郵送し、各回の実験のレジュメ、レポートフォーマット、図表フォーマットを Teams で配信した。遠隔授業は双方向型で実施し、レジュメ (主に実験方法)、実験結果の取り扱い方の説明を行い、質問の対応をした。その後、各自自宅にて実験を実施しレポートを作成した。レポートは Teams の課題にて提出された。補足部分、評価は次回授業までにフィードバックした。給食経営管理論では身近な事例および給食施設の事例を例に挙げ、ワークシートを活用しながら学習を進めた。実際の現場の状況を学ぶため映像資料などを活用した。給食管理実習 (1) は、2020年度前期に遠隔授業で実施した。実習に関しては、補講期間中に実施した。遠隔授業は双方向型で実施し、全体の説明後、献立計画や作業計画等はオンラインでグループディスカッションを実施した。実習を主体的に進めるため、実習ごとに担当を決め、献立、作業、指導計画を進め、実施、評価、改善のためのディスカッションを実施した。授業に使用する資料は Teams のファイルで共有した。また、実習においては、

コロナウイルス感染予防のための衛生手順を実践し、試食においても密を防ぐため、すべて弁当形式で実施した。

栄養教育実習演習（事前・事後指導）では、栄養教諭として実践的な学習をするため、生きた教材である学校給食を教材として取り上げた学習指導案の作成および模擬授業などを実施し、ディスカッションにより授業内容の評価および改善などを行った。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

すべての科目において対面授業、遠隔授業にかかわらず、学生相互が自主的に学び合い、授業時間外に学修時間を設けていることが確認できた（エビデンス 1）。調理学実験、給食管理実習（1）、栄養教育実習演習（事前・事後指導）のレポートおよび報告書などの作成では専用の教材を使用した（エビデンス 2）。調理学および給食経営管理論では参考資料およびワークシートを配布し、事前・事後学修を促すとともに実践的な理解につながった（エビデンス 3）。給食経営管理論、栄養教育実習演習（事前・事後指導）では現場における実践状況を理解するため映像教材を活用したところ、基礎的学習内容を実践的な視野でとらえることにつながった（エビデンス 4）。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

調理学実験および給食管理実習（1）などで学生同士が授業時間外に検討、議論し、資料収集、データ分析などを行う機会を増やす（ラーニング・コモンズ）。また、事前・事後学修を継続的に進められるよう、資料収集及び分析などの具体的提示を行う。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

##### 1 リアクションペーパー（非公開）

##### 2 テキスト 村山篤子他（編著）（2002）調理科学 建帛社

大羽和子他（編著）（2003）調理科学実験 学建書院

岡本裕子他（編著）（2019）給食経営管理テキスト 学建書院

文部科学省（2011）調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 学建書院

笠原賀子（編著）（2009）栄養教諭のための学校栄養教育論補訂 医歯薬出版 等

##### 3 参考資料およびワークシートなどの配付（非公開）

##### 4 映像資料 金田雅代（総監修）（2014）学校給食管理実践ガイド 丸善 等

## ティーチング・ポートフォリオ

今井久美子

(記入日：2020 年 9月 28日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

前期は栄養士の専門教育科目である栄養指導論(1)(2年選択必須科目、2単位)、栄養指導基礎実習(3年選択必修科目、1単位)、臨床栄養学、(2年選択必須科目、2単位)、公衆栄養学(3年選択必修科目、2単位)、他に本学科開講科目のコミュニケーション能力基礎演習(2年必修科目、2単位)、また共通教育科目である食と生命(選択必修科目、2単位：目白校舎)を担当した。

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

私の教育理念・目標は、社会学士としての栄養士育成である。栄養士の役割の一つに、健康維持・増進および生活習慣病予防と重症化予防、疾病の治癒と重症化予防に対する栄養基準を求め、基準に従った食の提供がある。よって、対象者とその周りの社会環境などを理解し、科学的根拠に基づき客観的な情報の解析、栄養問題点を見出し、主体的に問題解決ができる基礎的な知識と実践的な能力、併せ人が対象であることを忘れない心を身に着けた学生の育成に努めている。また、食を介した自己の健康管理の必要性と重要性も目標としている。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

今年度の前期科目実践の工夫を記す。前期の授業および実習は、Teams によるリモート授業を実施した。なお、栄養指導論(1)、臨床栄養学は、補講 2 回分を対面授業とした。試験は実施せず、事後学習(振り返る学習)および課題の提出により評価した。実習は、レターパック(事前配付)郵送によるレポート提出としたが、プリンターなどの印刷環境がない学生は Web 提出を可とした。

授業は Teams を使用し、PDF 資料(PowerPoint、Word、Excel)や URL の資料を学生に見せながら行った。講義時間は、30分～45分とし、残りの時間は、授業の振り返り学習とした。しかしながら、個別対応が必要な科目は授業時間 60分以上必要な場合は、学生の上承を得た。個人発表が必要なコミュニケーション能力基礎演習は、リモートを介し各自が発表できる場を提供した。資料などは教科ごとにアップした。出席は Forms を用いたが、Forms による提出が困難な場合は、チャットかメールで連絡するようにアナウンスした。振り返り学習や課題は Forms または Teams の「課題」を活用した。個々の学生からの質問は、

速やかに、丁寧に回答するように心がけた。課題やレポートは、コメントを付け返却した。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

リモート授業は、担当者には戸惑いの連続であった。配付資料も従来そのままでは、授業が困難であるなど日々試行錯誤であったが、5回目位より Teams を活用した授業法がわかるようになった。栄養指導関連の科目は情報解析に、計算や食事状況分析など、どうしても個人々人に対応することが必要となる。対面授業では、直接個人々人と対応でききるが、リモート授業での不安が残された。しかしながら、各自が画面を通すリモート授業は、言葉と画面による視覚的学習効果が持てるのではないかと期待された。ところが、振り返りのペーパーは二峰性であった。一方、共通教育科目の食と生命にて、「食事バランスガイド」という手法で各自の食事解析を試みたところ、授業に対する質問や確認のメールなど多数頂戴したが、最終レポートの提出状況およびコメントから「食事バランスガイド」から、自己の現在の食事の問題点を見出したという学生が多数おり、他学科の食による健康教育の成果の一つであったと評価できる。

本学科は、これまで学習習慣の乏しい学生が大半であったと思われるが、リモート授業では 30 分～45 分程度の基本授業を行い、その後振り返りの課題提出などは学生の学習の習慣化につながったのではないかと推察できる。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

近い将来、リモート授業が導入されるだろうと予測はしていたものの、いきなりの授業は、予想以上に正直大変であった。「やらねばならぬ」の中、リモート授業を YouTube で学ぶ機会でもあった。これらは、自身を客観視する時間となった。若いころもっと簡潔に実施していた授業は、いつしか、袋いっぱいの詰め放題となっていることを認識しながら時間が過ぎていた。知識は次の疑問や興味をもたらすが私の授業の理念である。できたい「満足感が乏しい」学生に、簡潔に、主体的に興味や関心から「満足感を味わえる」内容を検討中である。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1) プリント 担当者作成（非公開）
- 2) テキスト 相川りゑ子、會田久仁子、今井久美子他（2020）、Nブックス 三訂 栄養指導論、建帛社
- 3) テキスト 渡邊早苗、本間和宏、佐藤智英編著、若菜宜明、今井久美子他（2019）、Nブックス 臨床栄養学概論、建帛社

## ティーチング・ポートフォリオ

大坂 佳保里

(記入日： 2020年9月16日)

### 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

食生活論(1年前期選択必修2単位)、コミュニケーション能力基礎演習(2年前期必修2単位)、フードサービス論(2～4年前期選択必修2単位)、食生活文化論(2～4年前期選択必修2単位)、食品加工学(3年前期選択必修2単位)、フードスペシャリスト論(3年前期選択2単位)など

### 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

多様な社会環境に対応できる社会力と豊かな感性を有する栄養士や栄養教諭、家庭科教諭の養成、フードスペシャリスト等の関連資格の取得、加工食品の商品開発を通して食を多角的に捉える力の育成など、学生に専門知識の習得と社会での実践力が身につく、その結果として卒業後に専門職として自身や社会の健康に寄与できるようになることが教育目標である。

### 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

作成した講義資料や補足資料の配布により、授業の理解度や学習意欲の向上を図った。また課題や演習問題の提出を求め、復習と同時に授業の習熟度を確認にし、再説明や関連資料の情報提供などを行うことで、学修が順当に進むように指導した。さらに学生本人の食生活調査では、調査紙や集計表の完成、それを基にしたレポート作成の方法を指導するとともに、遠隔授業で陥りがちな生活習慣の乱れに対する気づきを促した。パワーポイントを活用し、画像や資料を提供することで、理解度が深まるようにした。授業は全て遠隔で行ったが、授業時間の後半に質疑応答の時間を設け、学生が課題制作や授業内容に対して自由に質問ができるようにし、授業時間内は常に待機してすぐに対応できるようにした。同時に、遠隔授業に伴う不安や問題点を発言する場としても活用することで、学生のストレスの軽減に努めるようにした。

### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

授業の復習は課題や演習問題をすることが中心で、予習はテキストを読むことが中心であったが、一定の学修時間が確保されていることが確認できた（エビデンス1）。食生活調査では実施感想の発表やレポートを通し、栄養士を目指す自覚が醸成しつつあることが確認された（エビデンス2）。

5 今後の目標（これからどうするか）

専門知識を垂直方向に捉え、他の科目との関連性を見いだせていない事例が散見されたので、関連科目のテキストを授業に取り入れ、横断的に専門知識を集積して活用できるように指導していきたい。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1 演習問題、課題（非公開）
- 2 調査票（非公開）、レポート（非公開）
- 3 テキスト 共著（2012）新版食べ物と健康 食品学各論

# ティーチング・ポートフォリオ

齋藤 美重子

(記入日：2020年9月13日)

## 1. 教育の責任

担当科目：社会生活入門（1）（1年前期必修科目2単位）、社会生活入門（2）（1年後期必修科目2単位）、サービス産業論（2～4年前期選択必修科目2単位）、消費生活論（2～4年前期選択必修科目2単位）、家庭科教育法ⅠⅡ（2～4年前期後期選択必修科目2単位）、コミュニケーション能力基礎演習（2年前期必修科目）、生活文化専門演習（3年通年必修科目4単位）ワーク・ライフ論（2～4年後期選択科目2単位）、ワーク・ルール論（2～4年後期選択必修科目2単位）、フードビジネス入門（2～4年後期選択必修科目2単位）、家庭科教育法（2～4年後期選択必修科目2単位）、家庭（1～4年後期選択必修科目2単位）

## 2. 理念

私の教育理念・目標は、学生が生活者の視点を持ち、生活と世界・自然とを総合的に捉え、かつ生活課題を科学的に分析して、人と社会・環境との関係性を探究する力をつけることである。現代社会を多面的に探究し本質を熟考することをとおして、人間関係形成能力、論理的思考力、課題発見・判断能力を培い、自分らしい最善の生活を営み、将来にわたり学び続ける態度を育成するとともに、社会に貢献できる人材を育成することである。

## 3. 方法

社会生活入門、サービス産業論、消費生活論、家庭科教育法では、ICTを活用し各自の課題探究と、ブレインストーミングやKJ法を用いたグループ学習により多様な意見を吸収させ、発表、再び個人で考察する時間を設けるといった往還の中で深い学びを促す。また、資料提供と課題探究学習による反転授業を行う。さらに、パワーポイントやDVDなど視聴覚教材により学習の理解促進を図る。生活文化専門演習では、文献資料の担当部分についてレジュメを作成・発表させ、理解を深め現状分析を促す。コミュニケーション能力基礎演習では、学生同士の対話や主体性を促進させるために、ICTを活用したプレゼンテーションを行う。家庭科教育法では、学習指導要領を詳細に検討し、学習指導案の作成と学生相互の評価を行う。知識と実習を融合させて知識の定着を図ったり、ICTを活用した授業を行うなど、よりよい教育方法について授業案を作成することをおして探究させる。模擬授業の実践、学生相互評価により振り返って、再度修正した模擬授業案を作成させることで学びを深める。

## 4. 成果

すべての科目において、学生が真摯に課題に取り組み、授業時間外に学修時間を設けていることがわかった(エビデンス①、②)。生活文化専門演習では文献資料の理解を深め、さらに現状把握と今後の課題について探究できた(エビデンス①)。家庭科教育法、コミュニケーション能力基礎演習では、学生同士が主体的に学び合ったことが確認できた(エビデンス①)。

## 5. 今後の目標

今年度はコロナ禍で、オーセンティックな学びをもたらす専門家や実践家を招聘することも異世代交流もできなかったが、来年度以降は再開させ人間関係形成能力を高めたい。また、フィールドワークも再開させ、現状分析を促したい。

ラーニングコモンズを活用し、学生同士が授業時間外にも対話をして、資料収集やレポートを検討する機会を増やす。また、リフレクション・シートをさらに活用し、再考を促して生涯をとおして学び続けるよう、主体的に学ぶ態度を育成したい。

## 6. エビデンスとなるもの

①リフレクションペーパー（非公開）

②レポート（非公開）

③生活文化学科ホームページ（公開）

<https://www.kgwu.ac.jp/2019/06/03/%e3%80%8c%e7%a4%be%e4%bc%9a%e7%94%9f%e6%b4%bb%e5%85%a5%e9%96%80%e3%80%8d%e2%80%95%e6%9d%91%e7%80%ac%e5%b9%b8%e6%b5%a9%e5%85%88%e7%94%9f%e3%82%92%e3%81%8a%e8%bf%8e%e3%81%88%e3%81%97%e3%81%a6%e2%80%95-2/>

<https://www.kgwu.ac.jp/2019/06/27/%e7%a4%be%e4%bc%9a%e7%94%9f%e6%b4%bb%e5%85%a5%e9%96%80%e2%80%95%e5%9c%92%e5%85%90%e3%81%a8%e3%81%ae%e3%81%b5%e3%82%8c%e3%81%82%e3%81%84%e4%ba%a4%e6%b5%81%e2%80%95-2/>

④テキスト：佐藤真弓・齋藤美重子編著(2020)『自然と社会と心の人間学』一藝社

プレゼンテーション研究会(2015)『学生のためのプレゼンテーション・トレーニング』実教出版

文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 家庭編 一平成29年7月』東洋館出版社

文部科学省(2018)『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 技術・家庭編 一平成29年7月』開隆堂出版

文部科学省(2019)『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 家庭編 平成30年7月』教育図書

⑤参考資料及びワークシートなどの配布（非公開）

⑥映像資料：特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター（PARC）「スマホの真実」

特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター（PARC）「プラスチックごみ」

コレクティブハウスかんかん森 居住者組合「森の風」「つながって、暮らそう！  
～10年目の、コレクティブハウスかんかん森～」

Andrew Morgan 監督「THE TRUE COST」

「awareness test」「The future of work」

東京学芸大学次世代教育研究推進機構「21CoDOMoS」

[www.u-gakugei.ac.jp/~jisedai/news/21codomos.html](http://www.u-gakugei.ac.jp/~jisedai/news/21codomos.html)

## ティーチング・ポートフォリオ

佐久間美穂

(記入日：2020年 9月 26日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

- ① 幼児教育学科：社会福祉（1年前期選択必修科目2単位）、社会的養護Ⅰ（2年前期選択必修科目2単位）、家庭支援論（3年前期選択必修科目2単位）  
社会的養護内容（3年後期選択必修科目2単位×2クラス）、保育実習演習Ⅱ事前・事後指導（3年通年選択必修科目2単位）、保育実習Ⅱ（3年生通年選択必修2単位）等
- ②生活文化学科：社会福祉概論（2年前期必修科目2単位）、社会福祉概論（医療秘書実務士科目2単位）

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

保育士、栄養士、医療秘書実務士の資格取得のために必要となる社会福祉関連の専門的知識・技術の習得と主体的に適応できる能力の育成を目指す。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

遠隔授業の特性を活用し、学生自身の端末（パソコン等）を用いることにより、指定した映像を繰り返し視聴することが可能となり、福祉対象者への理解、支援のあり方等の理解をより深めることができた。また、学生の通信状況を踏まえた上で学生自身が主体的に考え、記述し、それを基にグループワークあるいはクラス全体で共有化し、個々にリフレクションを行うとする双方向の授業形態も取り入れるようにした。工夫した点は、学生自身で考え、記述する時間の確保、終了前の個々のリフレクション、次回授業内でのフィードバックを行うことにより、学修意欲の維持と成果を実感できるように配慮した。あわせて、授業内・授業外でチャットを活用し、自分の意見や感想を求め、積極的に回答する学生の様子も見られた。同時に学生からの質疑応答への対応も随時行うようにした。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

返却されたワークシートから、学生自身が授業内容の確認と学修の成果を把握することができた（エビデンス①②）。実習関連授業では、自身の実習内容を

省察し、全体指導・個別指導を通じて、学生自身が努力すべき内容が確認された（エビデンス③）。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

制度の改正が多い福祉の関連法の状況を確認し、最新情報・データを授業内容に反映させる。あわせて、保育士養成課程の新カリキュラムに合わせたワーク等の内容を随時変更・修正する。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ①マイクロソフト Teams で提出されたワークシート（非公開）
- ②授業終了時に該当科目での自身の学びを記したペーパー（600 字程度・非公開）
- ③幼児教育学科の学修ポートフォリオ

## ティーチング・ポートフォリオ

学科：生活文化 氏名：佐々木唯

(記入日：2020年9月30日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

住居学 (2年生選択必修2単位)、生活デザイン論 (選択必修2単位)、基礎ゼミナール (1年生必修2単位)、生活文化専門演習 (3年生選択必修2単位)、情報処理(4) (2年生選択2単位)、女性学 (2年生選択2単位)

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

現代社会の動向をふまえて、学生が自らの生活スタイルを創造できること教育目標としている。そのために、住生活面から近代化の歴史と発展過程を学び、生活の視点を問題を発見して、課題を解決する能力を養っている。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

講義では、学生が各自のテーマを決めて発表し、発表を聞いて内容に関わるイメージマップを作成する課題を取り入れた。創造性を養うため、考えを展開したり、まとめたり、それを受講者が交換することによって、考え方のスキルや自信を持たせることができた。

さらに、主体的な学習を促すため、身近なテーマを示し、例えば「健康と環境」に関わる問題の発見や課題解決の実践に取り組んでいる。オンライン授業では、Teams を活用して、まず事前学習を決め、予習を前提に授業を進め学習への積極性、自主性を促した。さらに、Forms を通して学生の理解度を確かめ事後学習を示し、復習が行えるように Web サイトを作成した。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

Web サイトに授業内容の要点をまとめ、Teams にリンクを掲示することによって、学生が閲覧するようになり、自主性および事後学習の促しが可能となった。授業アンケートによると、事前・事後学習の時間が増えた。

### 5 今後の目標 (これからどうするか)

学生の理解度を確かめ、知識の定着や補足をするため、学生の気付きに応じて復習を行えるよう、Web サイトの充実をはかりたい。

### 6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

テキスト:住まいのデザイン、朝倉書店、2015

Web 非公開 <https://sites.google.com/住居学、生活デザイン、情報処理、女性学>

# ティーチング・ポートフォリオ

佐藤 真弓

(記入日： 2020年 9月 26日)

## 1 教育の責任

家庭経営学（専門教育科目必修2単位）、家族関係学（専門教育科目必修2単位）、現代の社会（共通教育科目選択必修2単位）、食料経済（専門教育科目選択必修2単位）、子どもの食と栄養（幼児教育学科専門科目選択必修2単位）など

## 2 教育の理念

私の教育理念・目標は、現代社会における様々な諸相についてその本質的要因を探り考察し、それらを自分自身の生活課題としてとらえようとする主体性を養うこと、よりよい生活、人生を送るために、それら生活課題に対してどのような解決法があるかを考え、自分らしいライフデザインを構想し実践できる態度を身につけることを目的としている。

## 3 教育の方法（実践の工夫）

授業資料としてワークシート（word,excel）や pdf 資料を事前配信しておき、授業時には Microsoft teams の「会議」機能を利用しオンライン授業を実施した。授業会議では画面共有しワークシート、パワーポイントのスライドで解説した。その後オフラインの時間では自習、チャットによる質疑応答を実施した。毎授業後に小課題レポート、もしくは「forms」機能による小テストを実施し知識の定着を図った。「forms」機能を利用して、回答を提出後すぐに学生が自分の点数、回答に対する教員からのコメントがみえ、復習に役立てられるようにした。「課題」機能からの提出には一人ひとりフィードバックのコメントを付した。授業では前回授業の復習として小課題レポート、小テストの講評も行った。さらに、「子どもの食と栄養」では、会議機能を利用して自ら興味関心のある物語メニューのレシピのプレゼン発表を行い、教員からの講評、学生同士の意見交換を行った。

## 4 成果（結果と評価）

ワークシート、パワーポイントのスライド等の使用と、会議機能を用いて授業解説を行えたことにより、学生が授業内容により興味をもって集中して取り組めたのではないかと考えられる。毎授業ごとの小課題レポートの提出や「forms」機能を用いた小テストの実施により知識の定着、生活課題の新たな発見などが確認できたが、幅広い視野からの課題設定や主体的な課題解決態度や意欲の育成までは至らなかったのではないかと考えられる。「子どもの食と栄養」各自がレポートをまとめ発表、ディスカッションを行うことにより、問題の根本原因を探る態度と、課題解決のための主体性が育成されたのではないかと考えられる。

## 5 今後の目標

対面授業では受講生が多い場合でもグループワークやディスカッションなど積極的に取り入れていきたい。資料や文献を使用した事前事後学修をより具体的に促す。

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ・ワークシート、レポート（小課題、事前事後課題等）、パワーポイントスライド
- ・期末レポート
- ・佐藤真弓『生活と家族』一藝社（2016）
- ・佐藤真弓・齋藤美重子編『自然と社会と心の人間学』一藝社（2020）
- ・（公社）日本フードスペシャリスト協会編『三訂 食品の消費と流通』建帛社（2016）
- ・フードスペシャリスト試験問題集
- ・水上由紀・細川裕子編『コンパクト版 保育者養成シリーズ新版』一藝社
- ・web サイト（課題資料として）
  - 消費者庁 HP <https://www.caa.go.jp/>
  - 厚生労働省 HP <https://www.mhlw.go.jp/index.html>
    - 令和元年人口動態統計（概況）  
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai19/index.html>
    - 授乳・離乳の支援ガイド(2019) [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_04250.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_04250.html)
- ・YouTube 動画（課題資料として）
  - ベアテ FC2 Video <https://www.youtube.com/watch?v=KhA7FNwSdB0&t=192s>
  - 移動スーパーとくし丸 ドキュメンタリー  
<https://www.youtube.com/watch?v=ru-cXUjO-sA>

# ティーチング・ポートフォリオ

生活文化学科 講師 築館香澄

(記入日：2020年9月30日)

## 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

前期：生化学（1年選択必修科目2単位）、基礎栄養学（1年必修科目2単位）、ライフステージ栄養学（2年選択必修科目2単位）、人体の科学（1~4年選択必修科目2単位）、基礎ゼミナール（1年必修科目2単位）、生活文化専門演習（3年必修科目4単位）、卒業研究演習（4年必修科目4単位）

## 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

私の教育理念・目標は、学生が「食べる」というあまりにも身近で日常的に繰り返している行動について、生化学的視点で生命現象を理解し、自らの健やかな生活と生命を尊重する力を養うとともに、その専門的な知識を持って、どのようにして周りの人々の健康へ寄与できるのか主体的に考え行動する素量を身につけることである。

## 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

学生が主体的に学び考える機会を作るために、生化学・基礎栄養学・ライフステージ栄養学・人体の科学では、オンライン環境下で、映像資料（Streamを使用）（エビデンス1）や多くの図の資料を共有し、人体の仕組みや構造、生体内でどのような化学変化が起きるのか、その化学変化が生命活動や代謝にどのような役割を果たしているかなどについて、一番身近な自分自身の体として理解できるよう促した。

2020年度前期授業は遠隔授業であった為、学生が不安なく授業に参加できるように、授業内容の資料の他に、授業のタイムテーブルを記載した授業導入の資料をはじめに提示し、確認する時間を設け、タイムテーブルの通りに進行した。また、授業ごとにリアクションペーパー（Formsを使用）（エビデンス2）を用い、授業内容の理解度を把握するとともに、質問については次の授業内で全て回答した。

生活文化専門演習や卒業研究演習においては、オンライン環境下において論文の輪読や、学生同士がディスカッションする機会を設けることで、研究内容に興味を持ち自ら学ぶ意欲を持たせるよう促した。

## 4 成果（どうだったか：結果と評価）

リアクションペーパー（Formsを使用）（エビデンス2）やディスカッションにより、学生が自らの健やかな生活と生命を尊重する力を修得し、周りの人々の健康へ寄与するために主体的に考え行動し、また自らの食生活がよい方向に変化していることが確認できた。人体の科学では、さまざまな学科の学生が受講していたが、栄養学に興味をもつようになった学生が多く見受けられ、授業を重ねるにつれて授業内容に関する質問に留まらず、多くの質問が寄せられた。この質問と回答について、オンライン環境下において受講学生全員と共有したことで、学生の興味と関心を引き出していたことがリアクションペーパー（Formsを使用）（エビデンス2）から読み取ることができた。遠隔授業のために今期初めて準備した、授業のタイムテーブルを記載した授業導入の資料は、学生から授業の進行がわかりやすく安心して授業を受けることができたという感想が寄せられた。生化学では、教科書以外の資料を、学生と教員が画面上で共有できたことによって、通常の授業よりも、メカニズムの説明が容易になり、通常の対面授業よりも学生が理解しやすい授業形態になったと感じたが、授業評価アンケートによると、専門的内容について知識の習得がやや難しかったと見受けられ、学生にわかりやすく説明し理解させることについて、課題を残した。

## 5 今後の目標（これからどうするか）

遠隔授業をしたことで経験し多くの利点を感じた、授業資料を画面上で共有し説明をすることや、Formsを利用したリアクションペーパー（理解度のチェックと質問）、teamsを利用した受講学生とのコミュニケーションについては、対面授業となった後にも活用していきたいと考える。専門分野の知識の修得については、より理解しやすい資料を提示し、繰り返し説明し、学生の事前事後の学修を促すことで、理解できるように改善していく必要がある。

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1) 映像資料（Streamを使用）（人体の仕組みについての映像資料）（非公開）
- 2) リアクションペーパー（Formsを使用）（理解度のチェックと質問）（非公開）

## ティーチング・ポートフォリオ

甲山 恵美

(記入日： 2020年 9月 29日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

生化学入門 (1年選択必修科目・2単位)、基礎ゼミナール (1年必修科目・2単位)、給食管理実習 (2) (4年選択必修科目・1単位)、ライフ商品開発 (2年生選択必修科目・2単位)、食品衛生学 (2年選択必修科目・2単位) など

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

栄養学に関する基礎知識、基礎技術を教授していくとともに、食と人との関わり方について、学生が自分なりの答えを持ち、実践する力を育むことである。学問として学んだことを、実生活につなげ、食に対する知識を深めていく。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

授業は、遠隔授業で実施した。授業動画を視聴し、手元のプリントに書きこみをさせた。プリントは、穴埋め式とし、ポイントとなるキーワードを自分で記入してもらうように工夫をした。最後に、小テストを行い、授業内容を理解できているか確認を行った。質問は、チャットで対応を行った。給食管理実習 (2) においては、課題を提示しオンラインで発表させたり、グループワークなどを取り込み、クラス全体で知識や意見の共有をはかった。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

パワーポイント資料や小テストを繰り返し行えるようにすることにより、意欲的な学習に繋がり、授業内容の理解に繋がられた。

レポートにはコメントを入れて、フィードバックすることにより、次のレポートに改善が見られた。

### 5 今後の目標 (これからどうするか)

専門科目について、事前事後学習ができるように、ワーク式のプリントを配布し、自主学習を促す工夫を行う。また、新聞記事や雑誌の記事を配布し、授業内

容と生活とを結びつけるような工夫を行う。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

レポート（非公開）

授業配布資料（非公開）